椰子の樹

長野県ニューギニア会 会報

第31号

令和4年6月15日発行
長野県諏訪郡富士見町落合
発行人　小池博之
印　刷　杏花印刷

センタニ地区街道から眺めたフンボルト湾、白砂青松の風景は、まるで「天橋立のようだ」と多くの将兵に望郷の思いとともにたいそう愛されていた。

ホーランジアの「天橋立」

先の大戦時・西部ニューギニアのホーランジアは、今では、インドネシア・イリアンジャヤ州（現パプア州）の州都となり、名称もジャヤプラ（人口31万）と変わった。

昭和19年4月から6月にかけての「ホーランジアの戦い」で日本軍は、この方面からの全面撤退を余儀なくされた。

以降一万数千の将兵は、ジャングルに追い込まれ、飢えと病魔とも闘いながら西方のサルミへ転進した。

ニューギニア方面 第54回戦没者慰霊大祭斎行へ

長野県ニューギニア会　会長　小池博之

新緑の美しい季節となり、本格的な梅雨の季節を迎えようとしていますが、会員の皆様には、ご壮健にてお過ごしのことと存じます。

平素は本会の活動に対し、温かいご支援を頂き、有り難うございます。

コロナ禍の終息が待たれる中、ロシアのウクライナへの軍事侵攻から四ヶ月。どのような形で終結するのか、戦争が長期化する可能性も高まっています。

21世紀の世の中で戦争が起こり、建物が破壊され、民間人が虐殺されている。「歴史は繰り返す」と言われますが、国際秩序への無謀な挑戦は、地球規模で多大な影響を与えています。

私達遺族にとって、80年前のあの忌まわしい大戦の記憶が甦ってきます。戦争は勝っても負けても得るものは無い。「人間は進歩しない。でも、歴史やご英霊の声を受け継ぎ、過去から学ぶことが大切」という、教訓を噛みしめ「恒久平和への語り部」として、粘り強く活動を続けて参ります。

夏のニューギニア方面戦没者慰霊大祭につきましては、コロナ禍により縮小開催してきましたが、「感染対策をしっかりして」3年ぶりに平常に戻し、斎行することといたしました。遺族会員の皆様には、大変ご迷惑をおかけ致しました。

また、現地慰霊巡拝団の派遣事業につきましても、感染症の安全が確認され次第、催行を予定しています。

英霊にこたえる会名誉会長 東部ニューギニア戦友遺族会長 堀江正夫氏 逝去

106歳

東部ニューギニア戦友・遺族会会長の堀江正夫氏が3月20日老衰のため死去した。享年百六歳。

同氏は、陸軍士官学校、陸軍大学校を卒業後、先の大戦に従軍し陸軍少佐・第18軍参謀を務め、東部ニューギニアで終戦を迎えた。

復員後は警察予備隊を経て、陸上自衛隊では陸将として西部方面総監等の要職を歴任。退官後は、参議院議員を2期務め、日本郷友連盟会長、英霊にこたえる会会長、日・パ協会会長、東部ニューギニア戦友・遺族会会長等の要職を歴任した。

長野県護國神社の戦没者慰霊大祭にも参加頂き、特に50回の節目の大会では、本殿において記念講演「ニューギニア作戦の実態」と題して3年半に渡り凄惨を極めた戦場の実相や、戦後の遺骨収集事業についても講演頂いた。

訃報を受け、横田顧問、小池会長がご自宅を弔問した。「同氏を偲ぶ会」が15日東京のホテルで開催された。

長野県ニューギニア会
ホームページご紹介
★パソコンやスマートフォンからご利用ください
ホームページアドレス
http://www.newguinea-nagano.jp/

長野県護國神社

春季例大祭厳粛に斎行

コロナ禍・遺族百五十名参加して

長野県護國神社の令和4年度例大祭は、4月29・30の両日、新緑の若葉が映える神苑で、諸祭儀が厳粛に斎行された。

新型コロナ感染症の影響を鑑み、30日の例大祭には県内各市町村の遺族会代表者はじめ、関係者百五十人が参集した。

本殿へと参進する宮司以下神職

午前11時、本殿の御扉が開かれ、海川山野の神饌が献ぜられ奥谷宮司が祝詞を奏上した。続いて巫女による「御霊慰めの舞」が奉納され、参列者代表が玉串を奉り拝礼した。ニューギニア会からは神社からの招請により、小池会長、大久保副会長が参列した。

同日午後1時、恒例の「直会」が美須々会館で開かれ、護國神社崇敬者会会長に就任した北村正博氏（県商工会議所連合会長）、神社総代会長の務台俊介氏らの挨拶があった。

また、大祭期間中、神域内では弓道大会、文芸展、いけばな展など奉納催事も開かれた。

日本兵の遺品と魂を米国から遺族の元へ

キセキ遺留品返還活動

戦後77年、先の大戦の記憶が風化する中で、日本兵の遺品を遺族らに返還する活動が今も続けられている。このほど、米国の活動団体から、本会に対して「ニューギニアで戦死した甲斐正男上等兵の位牌をご遺族に返還したい」と、情報提供を求めてきた。

戦争遺留品を無償で遺族に返す活動をしているのは、米イリノイ州に本部がある「キセキ遺留品返還プロジェクト」で、代表は愛知県出身のジャガード千津子さん（70）。国内にもこの活動を支援する組織がある。

今回情報の提供を求めているのは、縦6センチ（メートル）、台座の幅3・5センチ（メートル）の小さな木製の位牌。表には「陸軍上等兵・甲斐正男之霊」とあり、裏には「昭和十八年三月三日戦死」と記されている。

返還先を探しているお位牌の表と裏

この位牌について本会会員で全国ソロモン会・信越部長の天谷裕道さん（安曇野市在住）は、「お位牌に記された戦死日が、ニューギニアのダンピール海峡で51師団の将兵を乗せた輸送船団が壊滅した、ビスマルク海戦の日時と一致しており、ニューギニア会員の中にも関係遺族がいるのでは」と、説明する。

同プロジェクトでは「甲斐正男上等兵は、ビスマルク海戦で亡くなられ、同じ隊の戦友がお位牌を戦地で作り、その方もその後戦死し、米兵が戦後持ち帰ったのではないか」と推測している。

第51師団は宇都宮、高崎、水戸に連隊があり、県内からの入隊も多かった。昭和17年、1万6千人がラバウルに上陸、東部ニューギニア各地を転戦した。平成13年に編成した本会会員名簿によると、ダンピール海峡での戦死者は複数名確認されたが、同姓同名者は無い。この件に関する情報連絡先は本会事務局。もしくは全国ソロモン会信越連絡部、天谷宅携帯へ。

090-3143-4706

ダンピール海峡の悲劇

昭和18年3月1日、第18軍は東部ニューギニアへの兵力増強のため、輸送船団を組みラバウルを出港。ダンピール海峡で米軍機の激しい攻撃を受け、第51師団を乗せた8隻の輸送船と護衛の駆逐艦4隻が撃沈。約7千名の将兵と軍需物資の大半を失った。

この戦闘を米軍はビスマルク海戦、日本では「ダンピール海峡の悲劇」と呼んだ。

旧九段会館建て替え

「九段会館テラス」7月 竣工

オフィス・レストラン・クリニックモール導入
日本遺族会事務局は 4F に

完成した旧九段会館保存棟（前方の建物）と新築棟の外観（地上17階）

日本遺族会が事務局を置く旧九段会館の建て替え工事が終わり、施設名称を「九段会館テラス」として7月全面オープンする。

東京・九段下にある同建物は登録有形文化財建造物であることから、会館の一部を保存しながら建て替える「九段南プロジェクト」事業として推進された。

完成した建物は、敷地面積8765㎡、地上17階（高さ75m）、地下3階、北の丸公園とお堀に面しており、公園の緑を借景にするテラスとし、また「旧九段会館」を再び「照らす」という意味を含めて命名された。

大正期の帝冠様式を残す建物北東部分は、L字型に保存され90年の歴史を持つ建造物の魅力を後世に引き継ぐ。

建物用途は貸オフィス、宴集会場、シェアオフィス、飲食店街、地下1階には内科、歯科、薬局が集まるクリニックモールが開設され、さらにお濠沿いには遊歩道が設けられる。

昭和初期のモダニズムを感じさせる保存棟（旧九段会館）は、昭和史上重要な舞台となった二・二六事件戒厳司令部が置かれた建物。2階と3階には宴会場「鳳凰」と「真珠」の間が再現され、両室とも照明や装飾品を創建時と同様のデザインで復元した。

遺族会事務局は、新築建物の4階部分の靖国神社、日本武道館を望む眺望の良いお濠側に確保され、事務室・展示室・交流スペース等などが国から提供される。

海外遺骨収集事業再開
マリアナ諸島へ調査団派遣

コロナ禍で、海外への遺骨収集派遣事業は、すべて中断されている中、厚労省と推進協会は2月中旬、マリアナ諸島で現地調査を実施した。

現地の遺骨鑑定人が、これまでに発見済みの遺骨は、89柱と判定されており、サイパン島の施設に収容された。

このほか硫黄島において3回にわたり行った調査により14柱が確認され、千鳥ヶ淵墓苑に収容された。

亡き戦友、何としても祖国への思い

堀江正夫さんを悼む

平成31年7月、慰霊大祭で講演する堀江さん

靖国神社境内にある、桜の開花が宣言された3月20日朝、堀江正夫さんが逝去され、「靖国で会おう」と誓いを交し合った戦友のもとに旅立った。

大正、昭和、平成、令和と激動の時代・百余年の人生は文字通り「波瀾万丈の生涯」を歩んだ稀有な人物だった。

堀江さんは、開戦と同時に第5師団11連隊の中隊長としてマレー半島に上陸、シンガポール攻略作戦に参加した。ニューギニア作戦では昭和18年12月、米軍の侵攻が強まる東部ニューギニア・シオに潜水艦で敵前上陸し、第18軍の参謀として各地を転戦、ウエワク近郊の指令所で玉砕寸前の戦況の中で終戦を迎えた。

3年半に及んだニューギニア戦では多くの戦友が今も現地で眠る。「頭に浮かぶのは戦死者の姿。遺骨を何としても祖国へ」堀江さんは、戦後一貫して遺骨収集事業の推進に情熱を傾けた。

ニューギニアにおける戦没者は約15万人。8万余柱の遺骨が現地に取り残されている。遺骨収集事業は国の事業として行われているが、新型コロナの影響で2年間実施できない。

ニューギニア戦での戦闘指揮、そして戦後の身の処し方から「強い信念と慈愛を持ち続けた、真の武人」という、堀江さんの人物像が浮かび上がる。

本会は、創立当時から半世紀にわたりご指導ご鞭撻を頂いた。最後に今年の元旦、堀江さんから頂戴した自筆の年賀状を紹介して、心からの感謝とご冥福をお祈りしたい。

小池　博之

厳しさを増す国際情勢と打ち続くコロナ禍の中、会員皆様にはお揃いで新春をお迎えのことと存じます。

私も間もなく百七歳となります。余命幾ばくもない私ですが、憲法改正による安全保障体制の強化と東京裁判史観からの脱却とコロナの収束等、唯々祈るばかりですが、ご遺骨の帰還と慰霊の実施については、引き続きしっかり行える状態にする様、命ある限り尽くす所存です。

ニューギニア会の皆さまの益々のご多幸をお祈りいたします。

元旦　堀江　正夫

第54回（令和4年度）ニューギニア会 通常総会の報告

第54回長野県ニューギニア会通常総会は、2月11日松本市・みやま荘で開催した。会議は午後1時から開かれ南十字星の下に眠るご英霊並びに昨年度亡くなられた会員物故者に対し黙祷を捧げた。

小池会長は挨拶で「新型コロナ禍で7月の戦没者慰霊大祭は、感染防止のため、役員のみで式典を斎行。また、現地慰霊巡拝団の派遣事業も、昨年に続き中止となった」と、説明した。

その他の事業について「新規事業として7月の慰霊大祭に合わせ、神社神域内、本会慰霊碑敷地周辺樹木の伐採と剪定作業を、業者に発注して実施した」ことを報告した。

新年度の事業については、「会員の高齢化と減少傾向が続いているが、ご英霊の顕彰と慰霊、遺骨収集事業、それに現地住民との友好・親善事業などは出来る限り継続したい」と述べた。

続いて議事に入り、安川幹事長を議長に選出。第1・2号議案「令和3年度事業決算報告」の承認。第4・5号議案「令和4年度事業計画・予算案」ともに原案どうり可決承認された。

また、第6号議案としてニューギニア会の慶弔、見舞い規定（附則）が可決承認された。

【可決した主な内容】

一、令和3年度収支決算報告

収入総額　2，311，554円
支出総額　859，442円
（差額）2，311，554円
（翌年度繰越金）

二、令和4年度事業計画

・第54回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭の開催
（7月31日（日）午前11時
長野県護國神社）
・第41回東部・第4回西部ニューギニア方面慰霊巡拝団派遣（催行日未定）
・会報［椰子の樹］2回発行
・インターネット・ホームページの維持管理
・第55回通常総会開催

みやま荘で開催した定期総会

事務局から

長野県ニューギニア会の円滑な運営にご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。会費の納入などこれからも財政を積極的に支えてくださるようお願いいたします。

名義変更、転居、会費納入の相談など、ご遠慮なく会計担当まで一報ください。

会計担当　長田
☎026-241-4356

訃報

本会幹事・戦友 高見沢 袈裟久さん 逝去

本会幹事で戦友会員の高見沢袈裟久氏が、昨年12月24日逝去された。享年百二歳。

同氏は、歩兵第239連隊員として東部ニューギニア各地を転戦。帰還後は、幹事として佐久方面の会員のとりまとめ役として活動した。また、41師団の行動図など現地作戦に関する貴重な資料を本会に寄贈するなど、会の発展に尽力された。

訃報を受け、小池会長が北相木村のご自宅を弔問した。

まよい迷

竹村 淳

それは昨年の正月頃から始まっていた。何となく身体に違和感がある。検査の結果で胃癌があるとのこと、果たして体力が治療に耐えられるかを調べ、手術の検討が始まった。しかし、放っておけば一年でダメになるとの医師の説明を聞いた家族は「一日でも長生きしてほしい」と手術を勧める。

90歳を過ぎた自分はいかに生きるべきか?。迷いに迷って自身では決められなくなっていく毎日。手術を決めておいて翌日には止めるメールを出す始末だった。しかし、最後は「よし体を預けよう…」と決心。京都西本願寺から法名も頂き万全の準備で入院した。手術の経過は全身麻酔で何も記憶がないが、切腹の痛みに耐えながら闘病生活が続いている。コロナ対策で家族とも面会できず、マスク常用の厳しい現実を体験した。

いまは、従前からの介護施設のお世話になっているが、腹の傷を見るたびに「痛い思いをした分をなんで取り戻そうか」と考え、身の回りの断捨離や出せなかった年賀状、長年続けた確定申告も未提出のままなのでいまだに迷い続けている。

椰子の実

★76年前の戦災で生き残った筆者にはロシアのウクライナ侵攻に驚くばかり。歴史が繰り返す戦争とは人殺しが目的。いまこそ歴史の教訓に学んで★テレビではコロナとウクライナの情報が交互に。切り替えればお笑いタレントたちが、関係のない表情で騒いでいる落ち着かない毎日★長年お世話頂いた堀江正夫氏がご逝去。大正から4代百六年激動の時代を生き抜いた、ニューギニア戦の指揮官に、心から感謝を送りたい★東京大空襲の詳細な記録を残して早乙女勝元氏が逝去。10万人が無残に焼き殺された東京の夜、密集する木造家屋を狙った米軍の非道な焼夷弾戦法だった★日本兵の戦時遺留品返還活動をしている米国慈善団体から情報提供の要請。先の大戦は今や歴史上の出来事になりつつあるが、風化していく戦争の記憶を胸に刻んでいる遺族も多い。どんな些細な情報でもお寄せください★コロナ禍は収束へ向かいつつあるとの予測、マスク、手指消毒、ワクチンなど組み合わせながらお過ごしください。それにしても諸処の値上がりは困ります。入梅の候お大事に（T）